

農政連だより

みどりの風

Noseiren Dayori Midori no Kaze

8
月号
No.236

山鹿千人灯籠おどり (山鹿市:写真提供 熊本県)
毎年8月に行われる大宮神社の大祭。16日の夜おこなわれるクライマックスの「千人灯籠おどり」は、和紙と糊だけで作った灯籠を頭に載せ、浴衣姿の女性が「よへほ節」にあわせて舞踊り、その灯りがゆっくりと流れて時を忘れさせる。

主な内容

- ・第20回農政連通常総会の開催
- ・ガンバッテいます:磯田 毅さん、笹原 薫さん
- ・各連合会からのお知らせ



せせらび

第四十五回衆議院選挙が公示された。今回は政権選択の選挙と報道されるなど、自民党政権に対する大変な逆風の中の選挙戦である。

先般、全国知事会が地方分権に対する自民、公明、民主三党のマニフェスト(政権公約)の採点結果を発表するなど、今回の選挙への新たな動きも出ている。

しかし大きな争点は、わが国の農業政策にある。現在の農業・農村は、農業者の減少と高齢化が確実に進行し、耕作放棄地が増えるなど極めて厳しい環境にある。

「これまでの農政を抜本的に見直し、再生を旨とした改革を実行しない限り、日本の農業には食を担う力がなくなってしまう。」(日本経済新聞)

「日本農業の将来を見据えた抜本改革を打ち出すことこそ、政権を担おうとする政党の責任である。」(毎日新聞) こうした中で、民主党はマニフェストにおいて、「米国の自由貿易協定(FTA)を締結し、貿易自由化をすすめる。」と明記し、全国の農業者から、大変な反発を受けることとなった。このため「締結」を「交渉を促進」と変更し、「国内農業・農村の振興などを損なうことは行わない」との一文を追加した。

この民主党のFTAに対する迷走ぶりは、まったくもって、お粗末の限りである。

選挙戦に向け、各党とも農業・農村の重要性を掲げている。しかしそれらが、真に農業者・地域住民のための政策なのか、十分に見極める必要がある。

八月十三日、農政連は公認・推薦候補者と、「新たな基本計画における具体的施策の確立」等を始め五項目にわたる政策協定を締結し、農業・農村の振興のために活躍されることを約束した。

今回の選挙は大変厳しい戦いだが、農政連公認・推薦候補者の全員当選を、是非とも果たさなければならぬ。このため、この夏、盟友各位の熱い闘いを期待したい。

組織の強化で農政運動を！

7月23日、JA熊本中央会教育センターにおいて、「第20回農政連通常総会」を開催。



▲通常総会で、挨拶をする園田農政連委員長



▲来賓挨拶する自民党幹事長 前川収氏



▲来賓挨拶する衆議院議員 金子恭之代議士



▲来賓挨拶する兵谷芳康副 知事

選出された新役員（補欠選任）

熊本市総支部長	村上 一也
玉名総支部長	城内 孝義
阿蘇総支部長	中尾 雄二
県農協青壮年部協議会代表	西畠大二郎
県農協青壮年部協議会代表	上原 泰臣
県農協青壮年部協議会代表	善積 智晃
JA県女性組織協議会代表	寺本真理子
JA県女性組織協議会代表	福嶋求仁子
肥後開拓農業協同組合長	松村 俊昭
農業団体職員代表	橋本 明利
生産部会代表	幸恵 堅

162名の代議員出席（含む書面議決）により総会は成立し、安武副委員長の開会宣言で幕をあげた。主催者挨拶に立った園田委員長は、「生産現場の声を県・国に強力に要請することにも、なお一層農政連の強化に取組んでいく」、また「今回の衆議院選挙については各地区の論議を踏まえて委員会で候補者の公認・推薦を決定、候補者の当選に向けて全力を挙げて応援し

ていく」と述べた。最後に当日の総会議案への、十分な審議をお願いして挨拶を終えた。来賓として出席された兵谷副知事ははじめ金子衆議院議員、前川自民党幹事長（農政議員連盟会長）が来賓として出席し、祝辞を述べられた。この後、議長にJA本渡五和の蓮池組合長を選出。提案された第一号議案「平成20年度事業報告並びに収支決算書承認について」、第二号議案「平成21年度事業計画並びに収支予算書（案）承認について」、第三号議案「平成21年度会費の額並びに徴収方法について」、第四号議案「熊本みどり・食・環境基金設立のための農政資金及び農政特別資金の取崩しについて」、第五号議案「役員補欠選任について」が提案され、全議案ともに承認された。

昨年度の事業報告

1. 主な活動内容

- (1) WTO農業交渉・EPA交渉
 - ・WTO農業交渉の日本提案の実現に向けて、全国代表者集会への参加や要請・街頭宣伝活動等をした。
- (2) 熊本県農業の経営危機突破対策
 - ・生産資材高騰に対して農家経営安定の施策を確立するため、生産者等による危機突破大会を開催した。
- (3) 米穀・畜産・酪農等政策・価格対策
 - ・現場の意見・要望を反映させるため、全国大会への参加や県選出国議員等への要請活動を実施した。
- (4) 青果・果樹・特産政策、価格対策
 - ・価格保証制度や野菜価格安定対策・果樹経営安定対策及び、い草経営安定対策等について、組織討議を行い意見集約を行うとともに、国へ働きかけた。
- (5) 平成21年度農業予算及び農業政策関連に対する要望活動
 - ・平成21年度の国並びに県の農業予算対策、農業政策関連に関する要請活動を実施した。
- (6) 農村環境美化・資源環境保全運動
 - ・「熊本みどり・食・環境基金」(仮称)設立準備会で基金の運営及び計画等について協議した。
 - ・「空きカン・ビン等の投げ捨て防止キャンペーン」を実施した。
- (7) 広報対策活動
 - ・農政連情報誌「みどりの風」を、毎月11万5千部発行した。

2. 平成20年度収支決算書 (平成20年4月1日より平成21年3月31日まで)

(1) 収入 (単位：円)

(項目)	(収入済額)	(備考)
拠 出 金	41,261,200	県連盟会費450円のみを計上
事業・広報業務受託料	36,105,000	4連の業務受託料 5連の機関紙にかかる広報受託料
前年度繰越金	12,548,726	
雑 収 入	22	
合 計	89,914,948	

(2) 支出 (単位：円)

(項目)	(支出済額)	(備考)
組 織 整 備 費	4,125,886	県青協・JA 県女性協への助成金 生産者部会会議、農政連活動啓発等
農 政 活 動 費	9,287,664	基本農政確立、品目別対策、国政対策、全国集会、農政リーダー研修会、農政学習会、青壮年女性部研修会
農 業 再 建 対 策 費	7,201,383	WTO対策運動、農業危機突破大会
広 報 活 動 費	9,440,071	「みどりの風」発行費等
役 員 手 当	160,000	役員手当
給 料 手 当	27,311,498	職員給与
福 利 厚 生 費	5,945,806	社会保険料・労働保険料
旅 費 交 通 費	959,855	委員旅費、職員出張旅費、市内外交通費
事 務 費	1,311,204	電話、FAX使用料、切手代、文書発送料、事務用品購入代、コピー代、印刷代、新聞代、図書代
会 議 費	2,475,269	総会費、委員会費、事務局長会議費他
渉 外 費	875,310	慶弔見舞金、レタックス代他
施 設 費	2,746,658	FAX・コピー機購入代、公用車維持費、ガソリン代、水道光熱費、事務所・駐車場代他
支 払 負 担 金	1,000,000	全国農政協会費
雑 費	350,230	為替手数料等
農政特別基金繰入	5,000,000	農政特別対策基金会計へ繰入
予 備 費	0	
合 計	78,190,834	

(3) 決算残余金

収入済額 89,914,948 円－支出済み額 78,190,834 円＝ 11,724,114 円

農政連の本年度事業計画

1. 活動の具体策

- (1) 地域農政の確立と政策・価格対策運動の展開
 - ①国・県・市町村の農業関連政策・予算対策 ②農畜産物政策・価格対策
 - ③新たな「食料・農業・農村基本計画」の策定への対応
- (2) 課題別農政対策の強化
 - ①WTO・EPA等交渉対策 ②地域農政確立運動の強化 ③食農教育の展開
- (3) 農政推進体制及び情報活動の強化
 - ①全戸加入運動の展開 ②青壮年部、女性部等の加入促進
 - ③総支部・支部及び県連盟の活動の活性化と組織体制の強化
 - ④「みどりの風」の編集・発行とホームページによる情報提供
- (4) 「熊本みどり・食・環境基金」の創設による農業・農村及び環境を守る運動の積極的な展開
 - ①「熊本みどり・食・環境基金」を創設
 - ②農業・農村及び熊本の自然環境等を守るためのJAグループ挙げた運動の展開

2. 平成21年度収支予算書 (平成21年4月1日より平成22年3月31日まで)

(1) 収入 (単位：千円)

(項目)	(予算額)	(備考)
拠出金	43,344	県連盟会費450円のみを計上
事業・広報業務受託料	27,500	3連の業務受託料 4連の機関紙にかかる広報受託料
前年度繰越金	11,724	
合計	82,568	

(2) 支出 (単位：千円)

(項目)	(予算額)	(備考)
組織整備費	6,130	県青協・県女性協への助成金 生産者部会会議、支部活動強化等
農政活動費	6,535	基本計画対策、品目別対策、農業予算、国政対策、農政リーダー研修会、地域農政活動、食農教育
農業再建対策費	3,220	WTO・EPA対策運動、農業・農村を守る運動
広報活動費	10,791	「みどりの風」発行費等
役員手当	160	役員手当
給料手当	28,000	職員手当
福利厚生費	6,300	社会保険料・労働保険料
旅費交通費	1,780	委員旅費、職員出張旅費、市内外交通費
事務費	1,500	電話、FAX使用料、切手代、文書発送料、事務用品購入代、コピー代、印刷代、新聞代、図書代
会議費	2,440	総会費、委員会費、事務局長会議費他
渉外費	960	慶弔見舞金、レタックス代他
施設費	2,290	パソコンリース代、保険料、水道光熱費、駐車場代他
支払負担金	1,000	全国農政協会費
雑費	400	為替手数料等
みどり環境基金繰入	5,000	みどり環境基金繰入
農政特別基金繰入	5,000	農政特別対策基金会計へ繰入
予備費	1,062	
合計	82,568	



磯田 毅さん
JAやつしろ 園芸部会長

JAやつしろの園芸部会長磯田さんのお宅を訪問しました。

磯田さんは昭和27年11月生まれ。農業高校で園芸について学び、卒業と同時にトマト作りに専念しました。

現在、後継者も育ち、トマト75a、メロン1.3ha、米80aを栽培しています。

生産量日本一

八代地域は冬春トマトの生産日本一。100年ほど前は、海の底だったので天然の塩分、海藻やカキ殻のミネラルを豊富に含んでいます。そのミネラルと温暖な氣候が、味の良いハウス栽培のトマトを育てています。

消費者がおうちで安全・安心なトマト作りをめざしています。

土壌診断と太陽熱自然エネルギーで健康な土づくりや、青果物記憶システムによる生育コントロール技術で、ロクとつまみのあ

るトマト作りを努めています。

部会の活動

昨年からは新しい試みとして、集団検診の実施をはじめました。

「生産者が「健康」について考えよう」ということをアピールしたい。

消費者の口に入るトマトなので、細心の注意を払って栽培・管理しています。このことを消費者に理解されれば、生産者と消費者の信頼度が増すとの思いから、健康診断をはじめました。

この健康診断が、消費者と生産者をつなぐ架け橋になればいいと話していました。

消費者が満足するトマト作り

野菜の消費に占めるトマトの割合は、種類の増加や消費の多様化から、年々低下しています。

それに伴って、トマトの単価も下がってきています。

「これからは小売店との取引から、生活協同組合など業務用取引へのシフトをめざしています。」

また、味がいいものや数量が豊富な新しい品種を取り入れて、消費者が喜び、欲しいが欲しいトマト作りに取り組んでいます。結果として、安定した取引、安定した収入が得られれば最高ですと抱負を述べられました。

好きな言葉

怒(こゝろ) 「おもいやり、やさしさを相手の立場に立って作物を作れば、食べる側(消費者)も分かってくれる(見捨てない)」と話していただきました。



▲島子公民館にて

有明支部長 笹原 薫さん
JAあまくさ有明町フレッシュミズ

ミカン農家、はじめました

笹原さんは有明町の出身。一般企業へ就職していました。その後、現在のご主人と出会い、結婚。六年前からミカン栽培に携わる様になりました。今では三人の子供に恵まれ、両親と一緒に暮らしています。

美味しいミカンを目指し

笹原さん宅では、米を13a、柑橘類を1.8ha栽培しています。柑橘類は、デコポン、甘夏、清見、晩柑を栽培。主に笹原さん夫婦で担当しています。一日中続く農作業は、やはりきついとのことでした。しかし、育ったミカンを食べてもらった時の「甘い、美味しい」という声がかともうれしく、励みになると話します。

フレッシュミズでの活動

JAあまくさ有明町フレッシュミズは、現在二十三名の会員で活動しています。実生活に役立つ様な講習を計画。四月は家庭訪問時期に合わせて、フラワーアレンジメント。五月の「ルールデンウィーク」は親子参

加の青空教室を開催、地元産小麦を使ったうどん、かまどで焼く竹巻きバームクーヘンを作りました。また毎年恒例として、晩柑を使ったゼリーを作り、保育園、幼稚園にプレゼント。器には晩柑の皮を使っており、今年は約一五〇個作りました。十二月は親子で、クリスマスケーキ作りを予定しています。

少人数での特別活動

現在フレッシュミズ活動のほかにも、六名ほどの少人数で、特別活動をしています。この活動はどんな方でも自由に参加できることが特徴。

笹原さんの島子地区では、料理教室を実施。子供達と一緒に料理を楽しみました。子供が同級生といつこともあってにぎやかでした。次は草木染に挑戦します。

今後の期待と抱負

笹原さんは今後の抱負として「会員を増やすこと。また、フレッシュミズ活動を、色々な方に周知していきたいです。そして季節にあった活動で、子供と一緒に楽しんでいきたいです」と話してくれました。



▲特別活動グループの皆さん
後列左から米村さん、生活指導員の西川さん、沖津さん。前列左から笹原さん、松元さん。

2009年産目標150万俵

くまもと売れる米づくり産地集荷大会

くまもと売れる米づくり推進本部は、21日、くまもと売れる米づくり産地集荷大会を経済連7階ホールで開きました。県やJA、JA熊本経済連など、およそ250人が出席。

主催者を代表して本部長の園田俊宏JA熊本中央会会長が「安全・安心への取組みの強化を基本に、県統一ブランドマークを活用した販売戦略構築等により、『売れる米づくり』『生産者手取りの最大化』に向けて取り組んでいきたい。」とあいさつ。

まず、産地からのメッセージとして、JA熊本経済連上村幸男会長が「消費者に『くまもとの米』をご愛顧いただくことがなにより農家の希望。JAグループとして総力を挙げて、熊本県民の食糧を守りたい。そして、みんなで掲げた150万俵集荷の目標に向け頑張っていきたいと思います。」と力を込めました。また、消費者団体代表者として、熊本県消費者団体連絡協議会矢住ハツノ代表からは、「消費者へもっと熊本県産米のおいしさをPRして欲しい。」、熊本県学校給食会石井三男理事長からは、「子供たちが喜ぶおいしいお米を提供していただきたい。」とそれぞれメッセージがありました。

経済連米穀農産部矢野秀一部長が

ら、平成21年度集荷・販売戦略対策として、まず、経済連内に米の集荷対策本部を設置し、JAと情報の共有化を図りました。また、集荷販売方法として、従来の県連委託契約はもろろん、JA直売委託契約や、新たに生産者から直接米を買い取りに行く買取契約の3つが提案されました。米粉用米や、飼料用米などを独自の集荷形態により、新規販売先の開拓に取り組んでいきます。

最後に、各JAの職員代表者からそれぞれ力強い集荷目標の宣言を行いました。くまもと売れる米づくり推進本部は、熊本県産米の品質を高めるため、基本的な管理技術の徹底や、土作りの実践など、基本技術の徹底に努め、平成21年産の「150万俵」の目標達成に取り組んでいきます。



▲産地集荷大会で出荷目標宣言を行う14JAの代表者

「厳選 味彩牛」発表会

JA熊本経済連・JAくまもと肉牛銘柄推進協議会は、8月3日、ホテル熊本テルサで、「厳選味彩牛」の発表会を開きました。県下JAの代表者や、行政、流通関係や報道関係者などおよそ130人が出席。熊本県産ブランド牛「味彩牛」は、母がホルスタイン、父が黒毛和種の交配種。その中でも、肉質基準がよいワンランク上質のものを「厳選味彩牛」のプレミアムブランドとして、4日から県内のスーパーや量販店、関西方面で流通させ販売を行う予定。♂牛男爵をイメージキャラクターとして、幅広くPRしていきます。

「厳選味彩牛」は、日本食肉格付協会の枝肉肉質ランクの格付3等級以上で、霜降り度合い(BMS)4以上・肉色(BCS)4以下で、生後月齢24ヶ月以上肥育された肉のこと。県内では、主に県北地域で生産され、交雑種の中のおよそ3割弱が厳選味彩牛になります。発表会では、主催者を代表してまず、同経済連上村幸男会長が「JAグループが結集し、県産牛の認知度を高めるための努力をしていきたい」とあいさつ。

また、試食には、かわいいうま井と、ハンパングと、ばら肉の納豆汁の3種類の厳選家庭



▲厳選味彩牛を使ったかわいいうま井

料理も用意し、家庭で楽しんでいただくための料理のポイントを説明しました。肉質は柔らかく、ほどよい脂肪を言った霜降りが特徴。参加者からは、「脂がほどよくのつており、とてもおいしい」などの意見が聞かれ、厳選味彩牛の味を堪能しました。

第4回配送・接客コンテスト

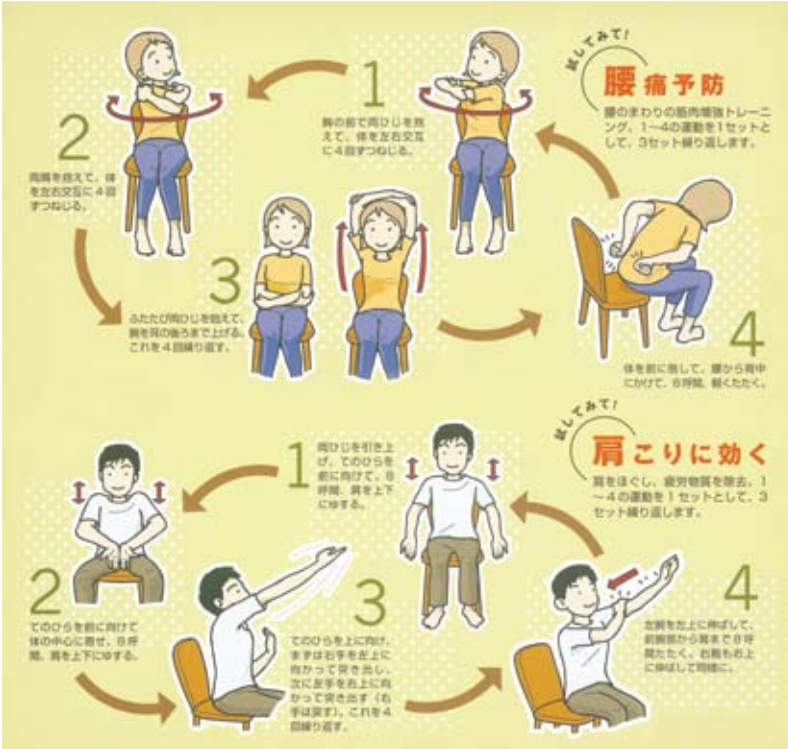
熊本クミアイプロパン(株)は7月23日、熊本市の本社敷地内で、第4回配送・接客コンテストを開きました。このコンテストは、配送員の業務遂行能力と接客技能の向上を目的として、4年前から取り組んでおり、本年も各配送センターの予選を勝ち抜いた12名の代表選手が出場。個人では、最優秀賞には昨年に引き続き阿蘇配送センターの橋本直樹さん、優秀賞に天草センターの野嶋健一郎さん、優良賞阿蘇配送センターの重石智之さん。団体でも昨年に引き続き一位が阿蘇配送センター、二位に天草配送センターがそれぞれ選ばれました。競技内容は、50kg容器2本設置のお客様を想定し、配送基本業務と接客対応を11分以内で行うもので、接客対応では、お客様に扮した本社女性社員が電化とガスの違いについて質問や、ガスコンロの手入れの仕方について質問を投げかけ、選手は、それぞれガスの安全性・料金面・環境などガスの優位性や、日常の手入れ方法について説明。同社は、オール電化攻勢によりクミアイプロパン利用者が減少する中、ガスの安全性を正しく理解して頂くため、JA女性部を対象にガス器具研修会を県下JAで開催する一方、配送・接客コンテストを通して、配送業務の技能向上と、顧客との「ふれあい一声活動」の充実・強化を図っています。

「手軽に安全に健康づくり」

「JA共済のレインボー体操」のご紹介

身体の各部の筋肉をよく動かして血液とともに酸素を細胞に運び、無理なくエネルギーを消費させる有酸素運動が健康によいということが、科学的にも明らかになってきています。

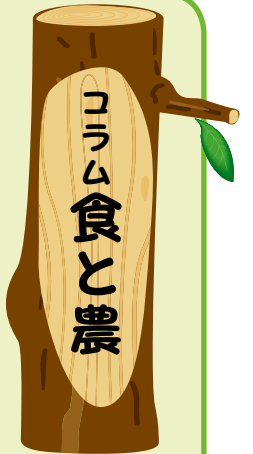
JA共済のレインボー体操は、「手を振る」「腕を伸ばす」「足ふみする」



など、日常生活でのやさしい動きを組み合わせた、いつでも、どこでも、だれにでも簡単にできる体操です。心臓に負担をかけることのない、やさしい動作で全身に血液を送ることがので、日頃運動をしていない方や体力に自信のない方、高齢者の方も安全に楽しく続けることができます。

立った状態はもちろん、座ったままでもOK。どんな音楽にも合わせる事ができるので、体力のない方は座ってゆっくりした音楽で、運動量が上がらない方は速いテンポの曲でたくさん動きを入れて行うなど、ご自分に合わせた楽しい健康づくりができます。

今回は、腰痛予防と肩こりに効く体操をご紹介します。どうぞお試しください。



JA食農教育に取り組むJAは、全国で7割

日本人の食のあり方が問われています。脂質の多い欧米型の食生活に近づいていたり、そのせいで肥満者の増加、また近年では「欠食」や、家族がばらばらに食べる「孤食」、「外食」、「中食」の割合が増えたりと、日本の食の環境を絶対にこのままにして良いはずはありません。

食育、食農教育の大切さが叫ばれる中で、JAグループでは、「食」と「農」への理解を一層深めるべく、全国の65・5%のJAが食農教育に取り組んでいます。具体的には、農業・農村体験学習（学童農園等）等の普及・推進（全国の69・5%のJAで実施）、JA全中が取り組む「バケツ稲づくり」セットの紹介・提供（全国で65・8%のJA）、学校給食への地場産農産物提供

（米：全国で57・1%のJA、米以外：全国で66・6%のJA）等を行っています。

世界では、飢餓人口が10億人もいるといわれているなかで、国民一人ひとりが「食」について考え直すことが必要との指摘もあります。JAグループは、引き続き、地域に根差した食農活動を推進していかなければなりません。

参考：『世界と日本の食料・農業・農村に関するファクトブック 2009』
JA全中「平成20年度全JA調査」



「ストレスについて」

心身の健康にとってストレスは大敵です。

ストレスは一種の圧力です。現代社会は、昔に比べ、ストレスが非常に多くなりました。ストレスの要因としては、

● 心理的要因 (不安、不満、焦り、怒り、憎しみ、悲しみ、恐れ、劣等感、嫉妬など)

● 社会的要因 (家族の病気や死、引越、転勤、昇進、失業、借金、離婚など)

● 物理的要因 (暑さ、寒さ、光、天候、騒音、臭気など)

● 生理的要因 (病気、睡眠不足、過労、妊娠、出産、月経など)

さまざまな要因があります。ストレスの要因は身近にあり、受け取る人の心によって、ストレスの度合いも違ってきます。ストレスによって、かえって、やる気がでて、発展する人と、逆に悪くなり、命まで失いかねない場合もあります。

病は気から、と言われることがありますが、長いストレス状態にあったり、非常に強いストレスを受けると、人間の心は疲れてしまいます。心がダメージを受けると多くの病気の要因になります。ストレスをなくすることはできません。心の健康を手に入れるためには、

ストレスとうまく付き合う必要があります。

心の健康のために必要なものは、適度な運動、バランスの取れた食生活、心身の休養です。

健全な精神は健全な肉体に宿るといふように、心身の健康を維持するためにも、適度な運動は大切です。心身の休養は、ただ、漠然と時間を過ごすだけでなく、趣味やスポーツ、旅行などによって、有意義に時間を楽しむことです。

JA熊本厚生連では各種健康教室や、運動教室なども開催していますので、ストレス解消法の一つとして、利用してみませんか。



▲健康教室から

あしがき

芙蓉は時の経過とともに、花色が変化してしぼんでしまう一日花。次から次へと新しい美しい花を咲かせてくれる。



八月に咲く花【芙蓉】

中国では芙蓉は「蓮の花」を指しますが、この蓮の花に似た美しい花を咲かせるところから、この名で呼ばれている。

芙蓉の名前は、美人に喩えて「芙蓉の顔(かんはせ)」といい、美しい富士山を芙蓉峰と呼ぶなど昔から多くの人々に親しまれている。

(花ごとは) しとやかな恋人

アオイ科 落葉低木 中国

● 盟友の皆様の「意見や周辺地域の話題、写真等、各地区の総支部・支部(JA本・支所)へお寄せいただければ幸いです。

連絡先 熊本県農政連

電話 096-3288-12884
FAX 096-3266-58007

訂正とお詫び

◆ 7月号で人吉の直売所名を「母ちゃんの手塩(てしお)」に訂正いたします。

冷凍米飯 愛食運動

ついに誕生! 熊本発信こだわり炒飯!!

JAグループ熊本 冷凍米飯愛食運動推進本部

JAグループ熊本

毎月18日は、「弁当の日」

基本的ルール…役職員自らが

- ①県産品・国産の素材を購入します
- ②自分で作って持参します

「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、食への理解促進と自給率向上、米の消費拡大等を役職員全員で取り組みましょう。

JA 熊本中央会